



2025年度
「Innovation for Cool Earth Forum
(ICEF)」の実施に係る国際連携及び情報
発信等事業

公募説明会 資料

公募期間：2025年2月6日（木）～3月7日（金）正午

- ※Teamsのマイク、カメラはOFFをお願いします。
- ※質疑の際はTeamsの挙手機能をご利用ください。

NEDO 事業統括部

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

目次

<u>I. ICEF概要</u>	-----	p.2-9
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.10-19
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.20-24
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.25-36
<u>V. 提案書作成に関する補足説明</u>	-----	p.37
<u>VI. 問い合わせ先</u>	-----	p.39

<u>I. ICEF概要</u>	-----	p.2-9
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.10-19
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.20-24
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.25-36
<u>V. 提案書作成に関する補足説明</u>	-----	p.37
<u>VI. 問い合わせ先</u>	-----	p.39

I . Innovation for Cool Earth Forum (ICEF : アイセフ) 概要



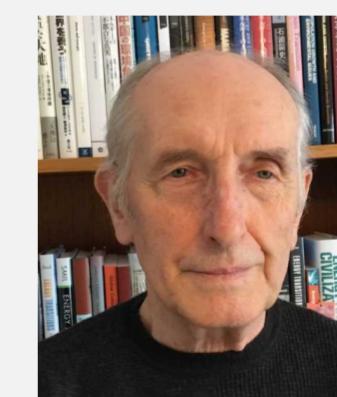
- 経済産業省が主催する、エネルギー・環境関連の国際会議を集中的に開催する「東京GXウィーク」の中の一つ
- 地球温暖化問題を解決する鍵である「イノベーション」を推進するため、世界の産学官のリーダーが議論する知のプラットフォームとして、2014年から日本で毎年開催している国際会議
- 最先端の知見を世界に発信し、気候変動の脅威に対する人々の意識を高め、行動変容の促進を目指す
- 多様化がイノベーションの源泉であるという認識の下、ジェンダー平等と若手世代の参画を推進
- 主催：経済産業省・NEDO
- 共催：外務省、文部科学省、農林水産省、環境省
- 協賛：国際エネルギー機関（IEA）、国連工業開発機構（UNIDO）、BloombergNEF



ICEF2024の様子

ICEF運営委員（2024年年次総会開催時点）

国内外の有識者によるICEF運営委員会を構成し、ICEF年次総会の企画・運営等を実施

委員長 	 アドナン・Z・アミン ハーバード大学ケネディスクールシニアフェロー 国際再生可能エネルギー機関（IRENA） 名譽事務局長 COP28 議長上級顧問	 サリー・M・ベンソン ホワイトハウス科学技術政策局 副所長・最高戦略責任者 スタンフォード大学教授（エネルギー理工学）	 Wu・チャンホワ ジェレミー・リフキンオフィス 中国・アジアディレクター アジア・太平洋水フォーラム執行審議会議長	 ゲオルク・エアトマン ベルリン工科大学 エネルギーシステム退官教授 KSB Energie AG 理事長	 エイヤ-リイタ・コール 欧州経済社会評議会CCMI代表	 黒田 玲子 中部大学先端研究センター 特任教授 東京大学 名誉教授 G7 GEAC (男女共同参画諮問委員会) 2023委員	 ホーセン・リー 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）元議長 カーボンフリーアライアンス会長	 坂野 晶 一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン 代表理事 一般社団法人Green innovation 共同代表 株式会社ecommit 取締役CSO (Chief Sustainability Officer)
田中 伸男 ICEF運営委員長 元国際エネルギー機関（IEA）事務局長 タナカグローバル株式会社 代表	 ヴィクラム・S・メータ センター・フォー・ソーシャル・アンド・エコノミック・プログレス（CSEP）研究財団会長	 ジョン・D・ムーア ブルームバーグNEF CEO	 バリー・ムーサ 大統領気候変動委員会 副議長 元国際自然保護連合（IUCN）会長	 ネボイシア・ナキチエノヴィッチ 欧州委員会主要科学アドバイザーグループ（GCSA）バイスチア 国際応用システム分析研究所（IIASA）名誉研究員 ウィーン工科大学 エネルギー経済 名誉教授	 デービッド・サンダーラー コロンビア大学世界エネルギー政策センター 創立メンバー コロンビア大学国際関係公共政策大学院エネルギー・環境部門 共同ディレクター	 イスマイル・セラゲルデン ニザーミー・ギャンジャ ヴィー国際センター評議会議長 アレキサンドリア図書館 創立名誉館長 元世界銀行副総裁	 バーツラフ・シュミル マニトバ大学特別名誉教授	 山地 憲治 公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）理事長 東京大学 名誉教授

- 日時：2024年10月9日（水）、10日（木）（10月8日（火）にICEF運営委員会を開催）
- 場所：ウェスティンホテル東京（オンライン同時配信のハイブリット形式で開催）
- メインテーマ：How to Live within the Planetary Boundaries through Green Innovation（プラネタリー・バウンダリーをグリーン・イノベーションでより良く生きる）
- 参加登録数：93ヶ国・地域から約1,700人（対面約850人、オンライン約850人）※対面参加者数（実績）は約450人
- セッション数：15（開会式、キーノート、プレナリー、テクノロジー、閉会式等）
- 登壇者数：約55名
- 成果物：①ICEF運営委員によるステートメント、②ICEFロードマップ（AIによる気候変動緩和 第2版）



ICEF2024の様子

- ICEF運営委員によるメッセージをステートメントとして、年次総会本番に発表
- 2018年度のICEFから本文に加えて、インフォグラフィックスも発表

ICEF2024 ステートメント [PDF](#)

ICEF2024 Statement from the Steering Committee

October 10, 2024

After a decade on its journey of advocating innovation to fight climate change and advance clean, green, smart and just transition, the Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) held its 11th annual meeting in a hybrid format on October 9th and 10th, 2024 as an initiative of "Tokyo GX Week", convening leading global and Japanese innovation champions to tackle a wide range of energy and environmental issues. Themed on "How to Live within the Planetary Boundaries through Green Innovation", ICEF 2024 examined hurdles to remove and opportunities to seize and create through innovation in the backdrop of geopolitical and social complexity. More than 1,700 people from governments, international organizations, industry, and academia participated in this event, representing 93 countries and regions. At the conclusion of ICEF2024, the Steering Committee is releasing the following statement based on a series of discussions.

1. Where our planet stands now

- The world faces deepening and complex planetary crises. The concept of planetary boundaries identifies nine critical boundaries for maintaining the stability and resilience of the Earth system as whole, and argues that out of the nine, the world has already overstepped six, including climate change.
- A UN report in May concludes that the world is not on track to achieve most of the SDGs by 2030. Multiple crises have caused significant setbacks to developing countries' efforts to eradicate poverty and end hunger. According to the 2024 Global Report on Climate and SDG Synergy, 80% of the SDG targets are directly linked to climate. Synergies between climate action and sustainable development need to be maximized. The 2025 round of Nationally Determined Contributions or NDCs under the Paris Agreement offers a major opportunity for countries to do so. ICEF hopes that COP29 this November in Baku will make a step forward towards stronger NDCs.
- The Future Summit, concluded last September, put transforming global governance at top priority in order to deliver SDGs. Innovative forms of global governance need to be considered, in particular against the backdrop of increasing geopolitical and geoeconomic complications, exponentially impactful technologies and rivalry. To break deadlocks demands redesign of governance structures and processes to fit for purpose to enable green innovation.
- The major issue at COP29 this year is finance. New initiatives and mechanisms, such as a new collective quantified goal or NCQG, will be proposed for adoption. In addition, the COP29 presidency proposed in July a new climate action fund, seeking



<https://www.icef.go.jp/jp/statement/>

- カーボンニュートラル達成に向けて短期的・長期的に貢献する主要な革新的技術の道筋、手法を提言するロードマップを作成
- ドラフト版をICEF年次総会で発表し、COP29で最終版を発表

ICEF 2024 ロードマップ：「ICEF人工知能（AI）と気候変動緩和 第2版」

人工知能（AI）と気候変動緩和 第2版 [PDF](#)

「人工知能（AI）と気候変動緩和 第2版」は、昨年に発表された2023年ロードマップのバージョン2.0であり、航空、民生部門、二酸化炭素回収、原子力、大規模言語モデル（LLM）、極端気象への対応など、昨年取り上げられなかった新しい話題を盛り込んでいます。また、電力システム、フードシステム、製造業部門、道路輸送、温室効果ガス排出モニタリング、材料イノベーションなど、昨年取り上げた内容も更新されました。各章で具体的かつ実行可能な提言を示し、気候変動への対応にAIをいかに活用できるかについて、詳細かつ包括的な提言を提供しています。

ロードマップと各章へのリンクは以下のとおりです。

序文 [PDF](#)

本ロードマップにおける5つのメッセージ [PDF](#)

概要 [PDF](#)

パートI - イントロダクション

1. 人工知能のイントロダクション [PDF](#)

2. 気候変動のイントロダクション [PDF](#)

パートII - セクター

3. 電力システム [PDF](#)

4. フードシステム [PDF](#)

5. 製造業部門 [PDF](#)

6. 道路輸送 [PDF](#)

7. 航空 [PDF](#)

8. 民生部門 [PDF](#)

9. 二酸化炭素回収 [PDF](#)

10. 原子力 [PDF](#)

パートIII - 横断的トピック

11. 大規模言語モデル（LLM） [PDF](#)

12. 温室効果ガス排出モニタリング [PDF](#)

13. 材料イノベーション [PDF](#)

14. 極端気象への対応 [PDF](#)

15. AIによる温室効果ガス排出 [PDF](#)

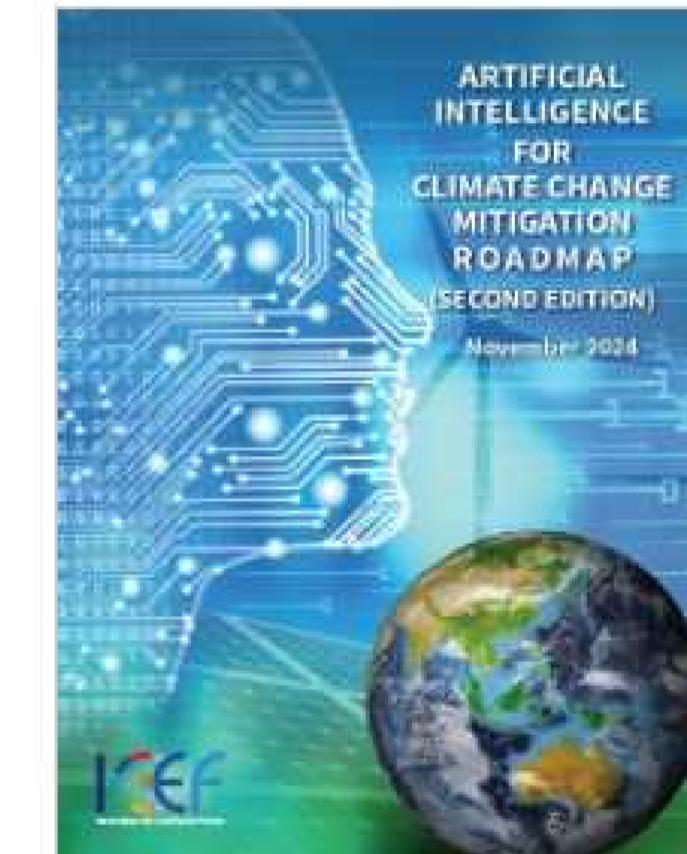
テキストボックス：データセンターによる水使用 [PDF](#)

16. 政府の政策 [PDF](#)

17. 考察と提言 [PDF](#)

付録A - 追加資料 [PDF](#)

付録B - 各章の提言 [PDF](#)



<https://www.icef.go.jp/jp/roadmap/>



※10/8(火)にICEF運営委員会(2時間程度)、ICEF運営員用ディナー(2時間程度)を別途開催

- ICEF運営委員会：
17名のICEF運営委員が参加し、ICEF年次総会のメインテーマ、セッションテーマ、登壇者候補、ロードマップ、ステートメント等の企画案を議論。事務局は、経産省・NEDO。
- ICEF年次総会：
ICEF運営委員会で議論された内容に基づき、開会式、キーノート・プレナリー・テクノロジーセッション等を実施。毎年10月に都内で実施。

ICEF運営委員会 (オンライン)

- 次回ICEF年次総会のテーマ、セッション案等を議論

ICEF運営委員会 (オンライン)

- ICEF年次総会開催に向けた各セッションの進捗状況等を議論

ICEF運営委員会 (東京)

- 年次総会本番の直前確認。ステートメント案などを議論
- 原則、年次総会前日に開催

ICEF年次総会 (東京)

- 年次総会本番ステートメント発表、ロードマップ原案発表

3月

6月

10月

<u>I. ICEF概要</u>	-----	p.2-9
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.10-19
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.20-24
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.25-36
<u>V. 提案書作成に関する補足説明</u>	-----	p.37
<u>VI. 問い合わせ先</u>	-----	p.39

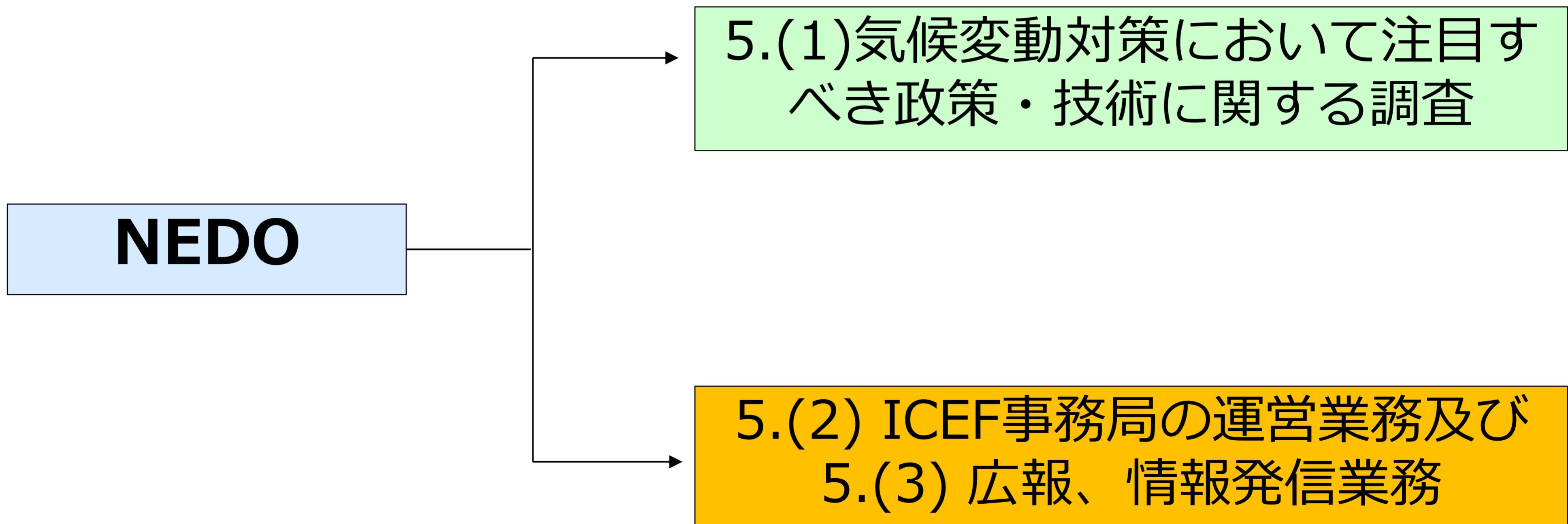
第12回ICEF年次総会（予定）

- **日程**：2025年10月8日（水）・9日（木）または9日（木）・10日（金）を予定（ただし、「東京GXウィーク」の開催時期等によっては、日時を変更する可能性がある）。
- **場所**：東京都心部（JR山手線の駅又は同線内側の地下鉄駅を最寄駅とし、最寄駅から徒歩10分以内程度とする）、もしくは、同等の効果・集客が見込める都市
- **主催**：NEDO、経済産業省
- **開催規模**：国内外の有識者約1,700名を想定（オンライン聴衆者を含む）（なお、2024年度対面参加者数 約450名）。
- **開催方式**：登壇者及び聴衆者が対面又はオンラインで参加するハイブリット形式での開催が可能であること。
- **セッション構成**：開会式、キーノート・セッション、本会議、分科会、サイドイベント、閉会式等で構成されると想定。セッション数は、10～15程度と想定。
- **使用言語**：原則、英語（同時通訳手配）

II. 公募概要



- 仕様書【5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査】、または、【5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務】のいずれかを満たす内容で公募
- 【5.(1)】及び【5.(2)、5.(3)】を合わせて一つの提案とする応募は受け付け不可



5.(1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関する調査内容
- ② ロードマップに関する調査内容
- ③ ステートメントに関する調査内容

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(2)

- ① 迅速なICEF事務局の立ち上げ
- ② 運営委員会の運営・手配
- ③ ICEF年次総会の運営・手配

5.(3)

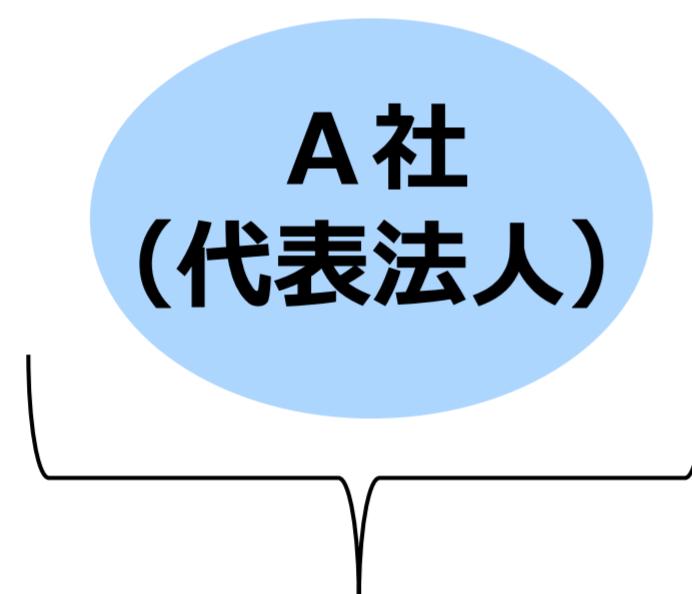
- ① ICEF広報戦略策定及び実施
- ② 公式ウェブサイト及びオンライン動画配信等の企画運営
- ③ 広報素材の作成・展示
- ④ ICEFの普及に関する広報活動

- **委託期間**
NEDOが指定する日から2026年3月31日まで
- **予算規模**
287,000千円未満
: 別紙「仕様書」5. (1) について78,000千円（目安）
: 別紙「仕様書」5. (2) 及び5. (3) について209,000千円（目安）
※目安であって、変更があり得る。
- **応募資格**
• 本事業への応募資格は、次の a. からc. までのすべての条件を満たすことができる、単独又は複数で受託を希望する企業等とします。
 - a. 環境・エネルギー技術に関する国際的な調査実績および国際的なイベントの運営や大規模会議の運営についてのノウハウや知識を有し、かつ、本事業の内容の遂行に必要な組織、人員を有していること。
 - b. 当該委託業務を円滑に遂行するために必要な経営基盤、資金等について十分な管理能力を有し、かつ情報管理体制等を有していること。
 - c. NEDOが調査／事業を推進する上で必要とする措置を、適切に遂行できる体制を有していること。

- 応募資格を満たす提案者は、単独又は共同での提案が可能
- 共同提案の場合は、代表法人を定めて提案
- 「5.(1)」及び【5.(2)、5.(3)】を合わせて一つの提案とする応募は受け付けません

例

単独提案

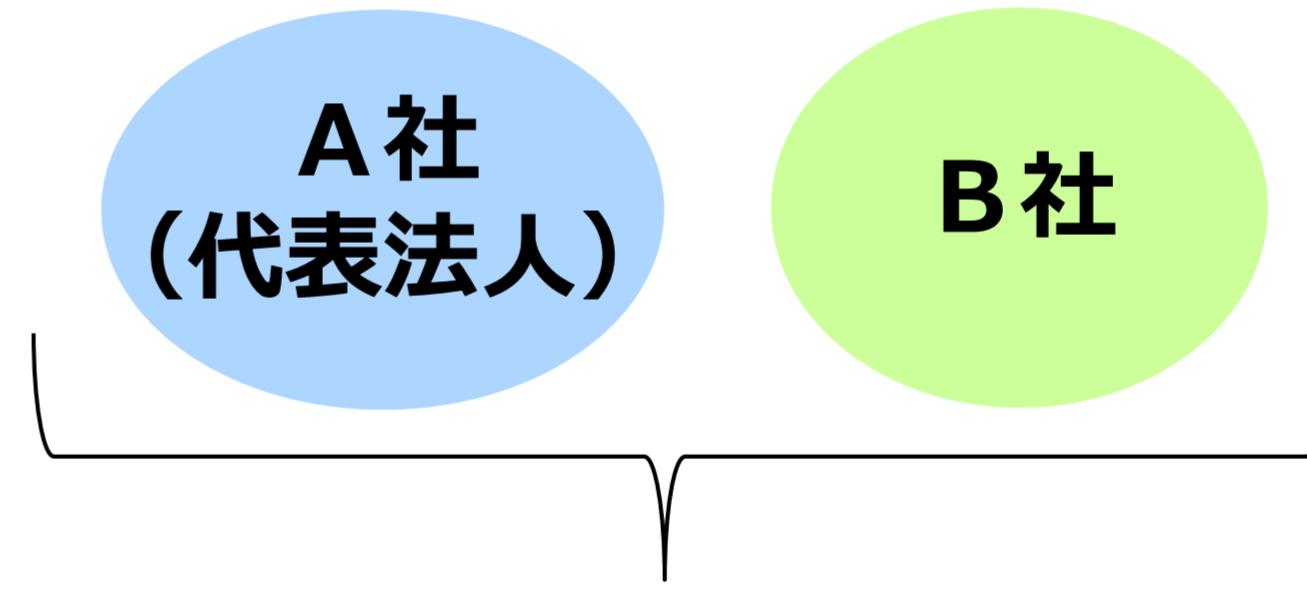


5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関する調査内容【担当：A社】
- ② ロードマップに関する調査内容【担当：A社】
- ③ ステートメントに関する調査内容【担当：A社】

例

共同提案

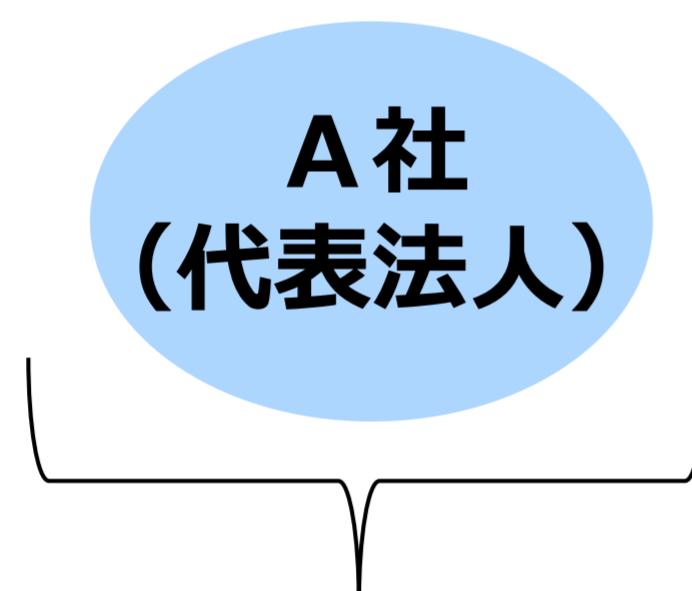


5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関する調査内容【担当：A・B社】
- ② ロードマップに関する調査内容【担当：A社】
- ③ ステートメントに関する調査内容【担当：B社】

- 応募資格を満たす提案者は、単独又は共同での提案が可能
- 共同提案の場合は、代表法人を定めて提案
- 「5.(1)」及び【5.(2)、5.(3)】を合わせて一つの提案とする応募は受け付けません

例 **単独提案** 

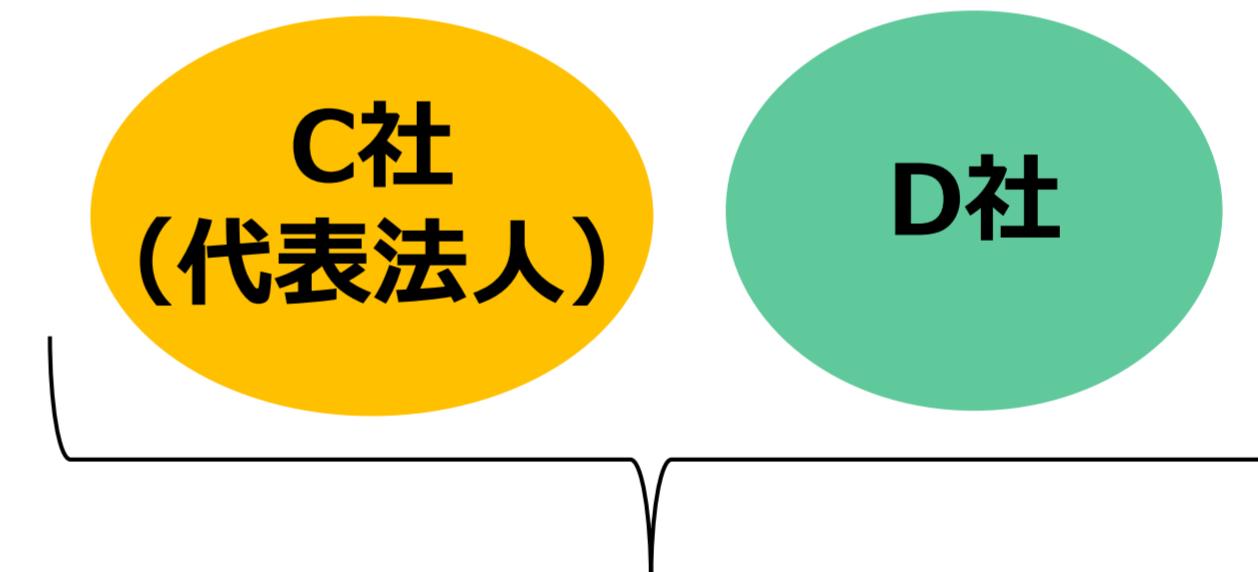


5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

- ① ICEF年次総会等におけるセッションに関する調査内容【担当：A社】
- ② ロードマップに関する調査内容【担当：なし】
- ③ ステートメントに関する調査内容【担当：なし】

提案区分を満たしていないので、提案不可

例 **共同提案** 



5. (2) ICEF事務局の運営業務

- ① 迅速なICEF事務局の立ち上げ【C社】
- ② 運営委員会の運営・手配【D社】
- ③ ICEF年次総会の運営・手配【C・D社】

5. (3) 広報、情報発信業務

- ① 迅速なICEF事務局の立ち上げ【担当：なし】
- ② 運営委員会の運営・手配【担当：なし】
- ③ ICEF年次総会の運営・手配【担当：なし】

提案区分を満たしていないので、提案不可
(5.(2)と5.(3)は合わせて提案が必要)

(1) 提出期限

**2025年3月7日（金）正午
アップロード完了**

- 持参、郵送、FAX又は電子メールによる提出は受け付けません。
- 期限までアップロードが完了しなかつた 提案書は無効とします。また、書類に不備がある場合は受理できません。
- 応募状況により、公募期間を延長する場合があります。その場合は、NEDOのウェブサイトでお知らせします。

(2) 提出先 (Web入力フォーム)

公募要領に記載の指定URLから提出をお願いします。



2025年度「Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) の実施に係る国際連携及び情報発信等事業」応募用 Web

必要情報の入力及び提案書類等のアップロードを行って下さい。他の方法（持参、郵送、FAX・Eメール等）による応募は受け付けません。

※提出期限：2025年3月7日（金）正午（日本時間）

※ 必須項目が入力されていないと受付登録できません。

※ 再提出は期限内なら何度でも可能です。同一の提案者から複数の提案書類が提出された場合は、最後の提出のみを有効とします。また、再提出の場合は、差分ではなく、全書類を再提出してください。

※ 登録、応募内容確認、送信ボタンを押した後に受付番号が表示されるまでを、受付期間内に完了させてください。入力・アップロード等の操作の途中で提出期限が来て完了できなかった場合は、受け付けません。

※ 通信トラフィック状況等により、入力やアップロードに時間がかかる場合があります。特に期限直前は混雑する可能性がありますので、余裕をもって提出してください。

※ アップロードするファイルはすべてPDF形式とし、提案書以外のファイルはzipファイルにまとめてください（各ファイルにはパスワードは付けないでください）。

以下のような機種依存文字は、入力禁止文字になりますので、各項目に入力の際はご注意ください。

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ (丸囲みの数字)

I II III IV V VI VII VIII IX X i ii iii iv v vi vii viii ix x (ローマ数字)

mm cm km mg kg cc ミリ クロ ドン クル クロ ドル ドン ハル (単位)

No. TEL No. KK. TEL ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ (省略文字)

縹 競 煙 染 充 施 痘 寛 崎 崎 味 咳 郁 咳 垣 坂 塚 (拡張文字)

アイエカキコカシセリツテナニミリヒヘホミムメヤヨリルロワオイエオヤヨツ。「」、・。 (半角カタカナ、記号)

¥ & / : * ? " ' < > | ^ [] { } (半角記号、改行などの制御文字)

①提案名 (必須)	【5. (1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査】、または、【5. (2) ICEF事務局の運営業務及び5. (3) 広報、情報発信業務】のいずれかを選択して下さい。
②提案内容の要約 [300字以内] (必須)	提案内容の要約を300字以内で入力して下さい。

(3) 提出にあたっての留意事項

- ・ 提案書は日本語で作成してください。
- ・ 再提出は受付期間内であれば何度でも可能です。同一の提案者から複数の提案書類が提出された場合は、最後の提出のみを有効とします。
- ・ 登録、応募内容確認、送信ボタンを押した後、受付番号が表示されるまでを受付期間内に完了させてください。（受付番号の表示は受理完了とは別です。）
- ・ 入力・アップロード等の操作途中で提出期限が来て完了できなかった場合は、受け付けません。
- ・ 通信トラフィック状況等により、入力やアップロードに時間がかかる場合があります。特に、提出期限直前は混雑する可能性がありますので、余裕をもって提出してください。
- ・ 提案書類に不備があり、提出期限までに整備できない場合は、提案を無効とさせていただきます。
- ・ 受理後であっても、応募要領の不備が発覚した場合は、無効となる場合があります。

提出書類一覧



提出書類	提出ファイル形式
提出書（別紙1）	PDF
ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況（別紙2）	PDF
情報管理体制等確認票（別紙3-1、3-2）及び確認項目5以外のエビデンス	PDF
提出書類チェックリスト（別紙4）	PDF
最新の代表者事項証明書の写し（履歴事項証明書、現在事項証明書でも可）	PDF
直近の事業報告書及び直近3年分の財務諸表 (貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)の写し	PDF (3年分を1つのPDFに統合)
会社案内（会社経歴、事業部・研究所等の組織等に関する説明書） (NEDOと過去1年以内に契約がない場合のみ提出)	PDF (複数ある場合は1つのPDFに統合)
疑義文書 (NEDOから提示した契約書雛形に疑義がある場合のみ提出)	PDF

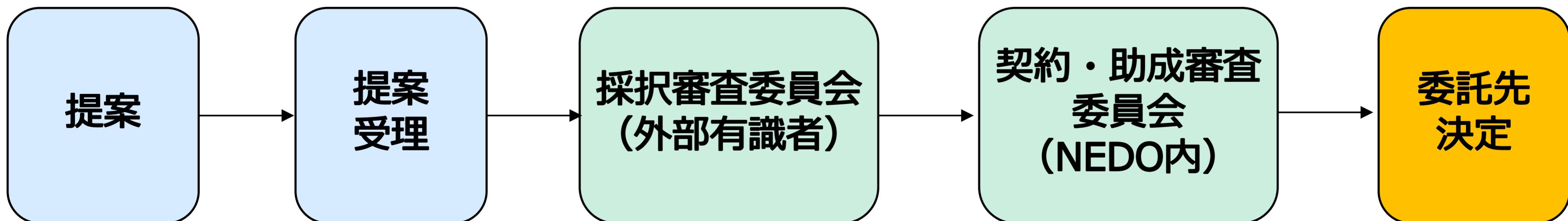
※ 詳細は別紙4「提案書類チェックリスト」をご確認ください。

※ 「提案書（別紙1）」を1つのPDFに統合してアップロードしてください。その他のファイルはまとめて1つのZipファイルにしてアップロードしてください。

<u>I. ICEF概要</u>	-----	p.2-9
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.10-19
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.20-24
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.25-36
<u>V. 提案書作成に関する補足説明</u>	-----	p.37
<u>VI. 問い合わせ先</u>	-----	p.39

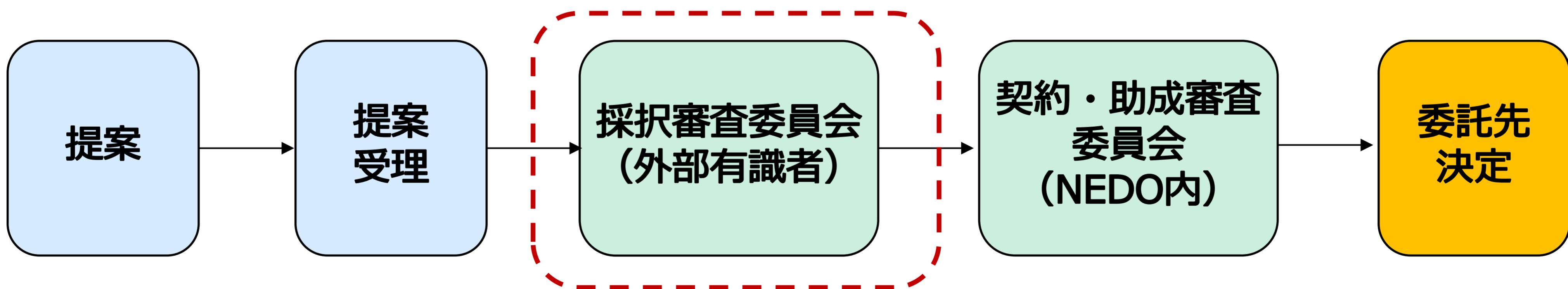
(1) 審査方法

- 提案受理後、外部有識者による「採択審査委員会」とNEDO内の「契約・助成審査委員会」の二段階で審査します。
- 契約・助成審査委員会では、採択審査委員会の結果を踏まえ、NEDOが定める基準等に基づき、最終的に実施者を決定します。
- 必要に応じてヒアリング審査や資料の追加等をお願いする場合があります。
- なお、委託先の選定は非公開で行われ、審査の進捗状況等、審査に関する問い合わせには応じられませんのであらかじめ御了承ください。



(ア) 採択審査委員会

- ① 事業の方法、内容等が優れていること。
- ② 環境・エネルギー技術に関する国際的な調査実績を有すること
(【5.(1)】の提案者のみ該当)
- ③ 国際的イベントや大規模会議の運営に関する十分な知識やノウハウ等を有すること(【5.(2)及び(3)】の提案者のみ該当)。
- ④ 当該事業を行う総合的な体制が整っていること。
- ⑤ 事業の経済性が優れていること。
- ⑥ 経営基盤が確立していること。
- ⑦ ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況の有無
- ⑧ 総合評価



(イ) 契約・助成審査委員会

i) 委託業務に関する提案書の内容が次の各号に適合していること。

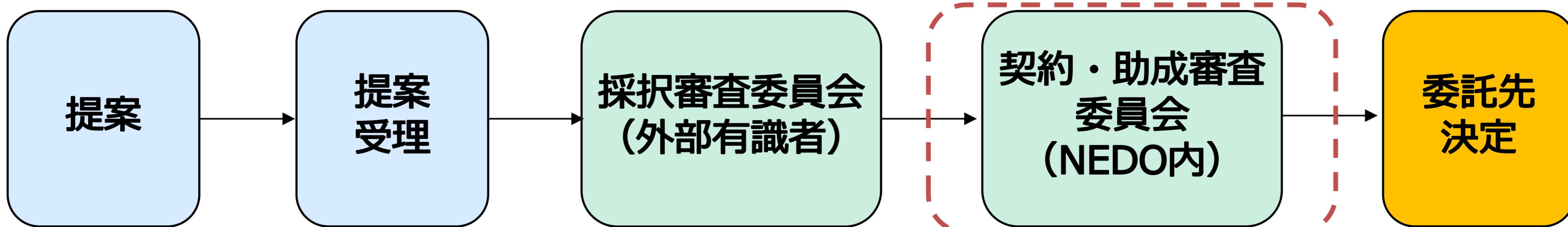
- ① 開発等の目標がNEDOの意図と合致していること。
- ② 開発等の方法、内容等が優れていること。
- ③ 開発等の経済性が優れていること。

ii) 当該開発等における委託予定先の遂行能力が次の各号に適合していること。

- ① 関連分野の開発等に関する実績を有すること。
- ② 当該開発等の行う体制が整っていること。
- ③ 当該開発等に必要な設備を有していること。
- ④ 経営基盤が確立していること。
- ⑤ 当該開発等に必要な研究者等を有していること。
- ⑥ 委託業務管理上NEDOの必要とする措置を適切に遂行できる体制を有していること。

なお、委託予定先の選考に当たってNEDOは、以下の点を考慮します。

- ① 優れた部分提案者の開発等体制への組み込みに関すること。
- ② 各開発等の開発等分担及び委託金額の適正化に関すること。
- ③ 競争的な開発等体制の整備に関すること。
- ④ 一般社団法人若しくは一般財団法人又は技術研究組合等を活用する場合における役割の明確化に関すること。



(3) 委託先の公表及び通知・スケジュール

(公募要領 p.8-9) 

① 採択結果の公表等

採択した案件（実施者名、事業概要）はNEDOのウェブサイト等で公開します。不採択とした案件については、その旨を不採択とした理由とともに提案者へ通知します。

② 採択審査員の氏名の公表について

採択審査員の氏名は、採択案件の公開時に公開します。

③ 附帯条件

採択に当たって条件を付す場合があります。

④ 採択までのスケジュール（予定）

2025年2月6日（木）	：公募開始
3月7日（金）正午	：公募締め切り
3月下旬（予定）	：採択審査委員会
4月上旬（予定）	：委託先決定、結果公表
4月（予定）	：契約締結

<u>I. ICEF概要</u>	-----	p.2-9
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.10-19
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.20-24
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.25-36
<u>V. 提案書作成に関する補足説明</u>	-----	p.37
<u>VI. 問い合わせ先</u>	-----	p.39

5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

①ICEF年次総会等におけるセッションに関連する調査内容（抜粋）

- 各セッション（開会式、キーノート・セッション、本会議、分科会、サイドイベント、閉会式等）の登壇候補者の提案及び登壇者確定までの調整、年次総会に向けた事前打ち合わせ対応（資料作成含む）、年次総会当日及び事後対応
 - ICEF運営委員会、ICEF国内幹事会（※）におけるICEF年次総会のセッション関連資料等の作成
- （※）ICEF国内幹事会は、ICEFの運営委員（日本在住）とICEF事務局の会議を指す

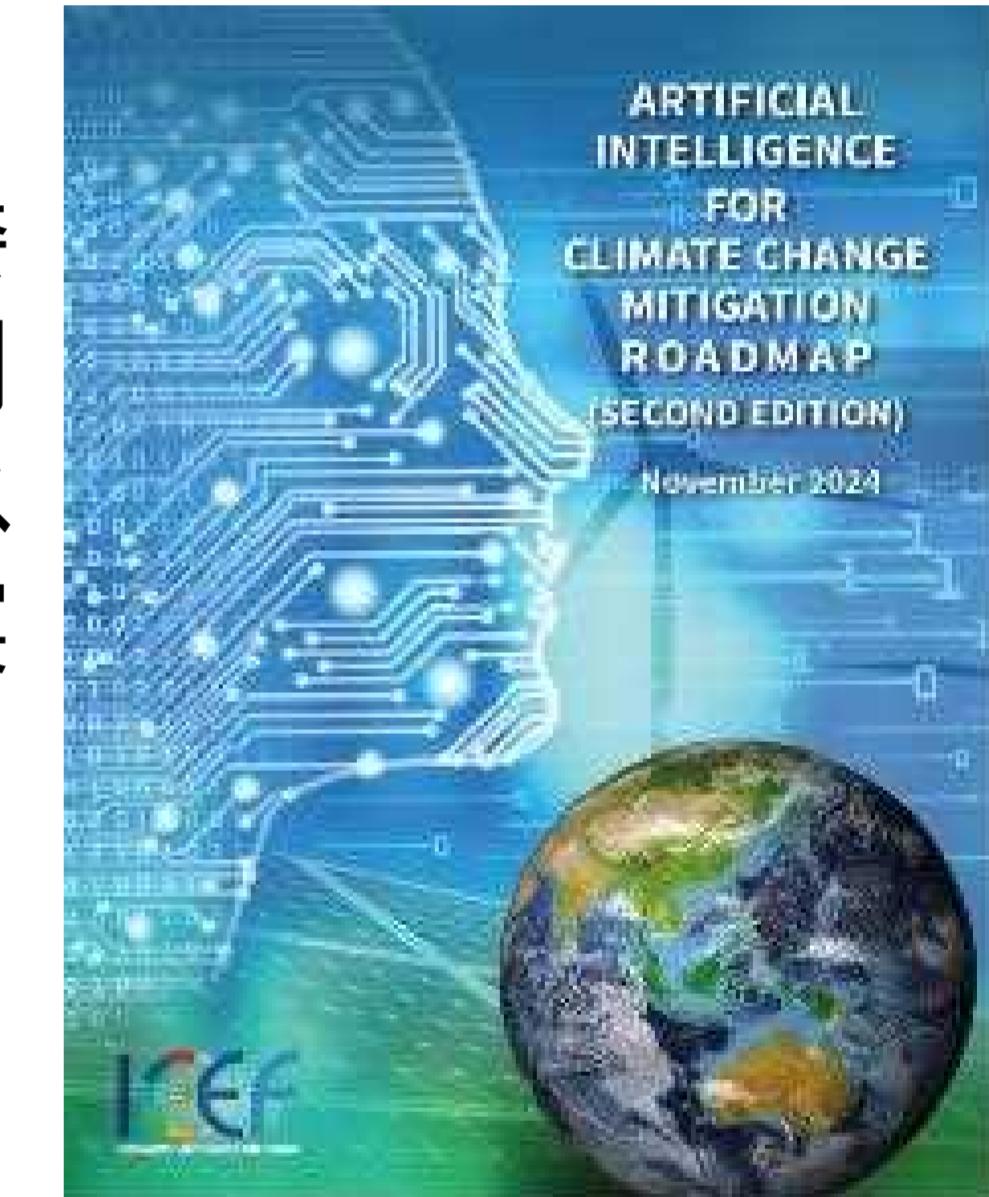


- ICEF年次総会開催に向けた、各セッションの企画、登壇候補者の提示、登壇候補者への登壇依頼、セッション関連資料作成、登壇者との事前打ち合わせの実施
- ICEF運営委員会・年次総会・国内幹事会の当日・事後対応（資料作成、議事録作成、事後報告パンフレット作成等）

5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

②ロードマップに関する調査内容（抜粋）

- ICEFロードマップの作成にあたっては、ICEF運営委員、国内外有識者、主催者と内容等に関して綿密な調整を行う。また、ロードマップの普及に寄与するイベント（COP30等）への参加及び関係者との調整等を実施する。



※ICEFロードマップ本文は、ICEF運営委員が作成予定。作成費用は当初予算に含めなくてよい。

- ICEF運営委員、NEDO・経産省等とのロードマップに関する連絡・調整
- ロードマップの内容確認、解説資料作成等
- ロードマップの成果発表イベント（COP30等）の企画・調整業務等

5.(1)気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査

③ステートメントに関する調査内容（抜粋）

- ICEFステートメント（*）の作成にあたっては、ICEF運営委員、主催者と内容等に関して綿密な調整を行う。
- また、ステートメント作成時は、IPCC、COP等での発表資料等を参照して作成し、ネイティブチェックも行うこと（完成版は日本語の仮訳も作成すること）。また、ステートメント本文を視覚的に表現したインフォグラフィックスの作成を行う場合は、5.(2)・(3) 業務の受託事業者と調整を行うこと。



ICEF2024 Statement from the Steering Committee
October 10, 2024
After a decade on its journey of advocating innovation to fight climate change and advance clean, green, smart and just transition, the Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) held its 11th annual meeting in a hybrid format on October 9th and 10th, 2024 as an initiative of "Tokyo Gx Week", convening leading global and Japanese innovation champions to tackle a wide range of energy and environmental issues. Themed on "How to Live within the Planetary Boundaries through Green Innovation", ICEF 2024 examined hurdles to remove and opportunities to seize and create through innovation in the backdrop of geopolitical and social complexity. More than 1,700 people from governments, international organizations, industry, and academia participated in this event, representing 93 countries and regions. At the conclusion of ICEF2024, the Steering Committee is releasing the following statement based on a series of discussions.

- Where our planet stands now
 - The world faces deepening and complex planetary crises. The concept of planetary boundaries identifies nine critical boundaries for maintaining the stability and resilience of the Earth system as whole, and argues that out of the nine, the world has already overshot six, including climate change.
 - A UN report in May concludes that the world is not on track to achieve most of the SDGs by 2030. Multiple crises have caused significant setbacks to developing countries' efforts to eradicate poverty and end hunger. According to the 2024 Global Report on Climate and SDG Synergy, 80% of the SDG targets are directly linked to climate. Synergies between climate action and sustainable development need to be maximized. The 2023 round of Nationally Determined Contributions or NDCs under the Paris Agreement offers a major opportunity for countries to do so. ICEF hopes that COP29 this November in Baku will make a step forward towards stronger NDCs.
 - The Future summit, concluded last September, put transforming global governance at top priority in order to deliver SDGs. Innovative forms of global governance need to be considered, in particular against the backdrop of increasing geopolitical and geoeconomic complications, exponentially impactful technologies and rivalry. To break deadlocks demands redesign of governance structures and processes to fit for purpose to enable green innovation.
 - The major issue at COP29 this year is finance. New initiatives and mechanisms, such as a new collective quantified goal or CQG, will be proposed for adoption. In addition, the COP29 presidency proposed in July a new climate action fund, seeking



- ICEF運営委員、NEDO・経産省と協議し、ステートメント原案を作成、各種意見を踏まえて修正
- 英語版（ネイティブチェック含む）・日本語の仮約の作成
- インフォグラフィックスを作成する場合は、作成に関するフォーラム運営・広報業務受託者との調整

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(2) ①迅速なICEF事務局の立ち上げ（抜粋）

- ・ 本事業全体の工程計画を含む各種工程計画の策定
- ・ ICEF運営委員、登壇者、主催者への各種連絡・調整
- ・ 主催者と委託先間での資料共有を目的とした情報共有システムの手配（2024年度はファイル共有サービスの「BOX」を利用）
- ・ 大使館・領事館、環境・エネルギー関連団体等に対するICEFへの参加依頼や各種連絡・調整
- ・ 登壇者、賓客等向け招待状・御礼状の作成・送付
- ・ 参加登録システムの構築、登録データ管理、登壇者情報のデータ管理、データメンテナンス等に係る付随業務
- ・ 参加者の取りまとめ（スクリーニング業務を含む）、名簿の作成
- ・ 国内外からの登壇者の招へいに係る業務（航空券手配・宿泊手配含む）
- ・ 運営委員の招へい、ICEF関連イベントへの出席に係る業務（航空券手配・宿泊手配含む）

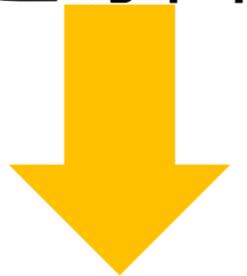


- ・ ICEF年次総会開催に向けた事務局運営、ロジスティックス業務全般
- ・ 主催・登壇者・一般参加者等との連絡調整業務

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(2) ② ICEF運営委員会の運営・手配（抜粋）

- ・ 主催者の指示に基づき、ICEF運営委員会を運営すること。また主催者の指示に基づき、運営委員会に出席すること（状況に応じてオンライン会議や同システムを併用するハイブリッド形式も想定）。なお、運営委員会は、国内外での対面開催又はオンライン開催で年3回程度を予定している（開催時期は2025年6月、10月、2026年3月を想定。なお、10月はICEF年次総会前日もしくは当日に開催予定）。
- ・ 対面開催の場合は主催者の指示に基づき、適切な会場を手配すること。
- ・ 運営委員との連絡・調整、必要に応じて招へいに係る業務を実施すること。
- ・ 資料等の準備をすること（作成、印刷（ペーパーレスで行う場合は、資料閲覧用タブレット端末等の手配）、輸送等含む）。
- ・ 議事録の作成をすること。



- ・ ICEF運営委員会（年3回：各2~3時間程度）の運営補助
- ・ 開催形式：2025年6月（オンライン）、10月（東京）、2026年3月（オンライン）を予定
- ・ ICEF運営委員との連絡・調整業務
- ・ ICEF運営委員会の資料作成は、主に経産省・NEDO、5-(1)受託者が対応

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(2) ③ ICEF年次総会の運営・手配（抜粋）

- A. 会場手配

条件：

東京都心部（JR山手線の駅又は同線内側の地下鉄駅を最寄駅とし、最寄駅から徒歩10分以内程度とする）、もしくは、同等の効果・集客が見込める都市

- (ア) セッション会場

- セッション会場として、登壇者以外に、スクール形式で400名程度を収容できること。



- 2025年度の年次総会の会場決定、2026年度の年次総会の会場候補リストアップ、仮予約
- 2025年度の年次総会運営・手配の詳細は、「B.～E.」を参照

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(3) 広報、情報発信業務

① ICEF広報戦略策定及び実施（抜粋）

- ICEFに関する全体及び個別事項に関する広報戦略・スケジュールの策定。
- 具体的には以下の内容を含めること。
- 知名度向上を図る広報手法の策定及び検討。印刷物、メディア向け広報物、ソーシャルメディア、外部イベント等を活用したICEFの広報活動案
- 対面参加者増を主とした、ICEFへの参加申込者の増加（メディアを含む）を図る手法
- 国内外有識者・メディアによるICEF関連記事の増加を図る手法
- 環境・エネルギー分野に関心がある若者世代への訴求方法



- 2025年度のICEF年次総会の参加者数増加（特に対面参加者数）、メディアでの露出増加に向けた広報戦略の策定（一般参加者用、報道関係者用）
- ICEFの認知度向上に向けた戦略策定・実施（例：若手世代への訴求等）
- ICEFのソーシャルメディアアカウント（LinkedIn、YouTube）の運用

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(3) 広報、情報発信業務

②公式ウェブサイト及びオンライン動画配信等の企画運営（抜粋）

- ICEF公式ウェブサイト (<https://www.icef.go.jp/> 日本語版・英語版) ・公式ソーシャルメディア（以下、「公式ウェブサイト等」という。）の全体構成等の企画・運営（更新及び保守等）、メディア・一般向け広報物の作製を実施すること。
- 会場での収録とインターネット配信
- 公式ウェブサイト等へのICEF年次総会開催結果の掲載
- 公式ウェブサイト等のアクセス解析
- メールマガジン (ICEFニュース)、ソーシャルメディア等の運用



- ICEF公式ウェブサイトの更新（プログラム、登壇者、講演資料等）
- 年次総会の収録、インターネット配信、YouTubeへの事後掲載
- 公式ウェブサイトのアクセス解析
- メールマガジンの配信（日・英）、ソーシャルメディアの運用

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(3) 広報、情報発信業務

③広報素材の作成・展示（抜粋）

- ・ (ア) パンフレット等の作成等（日本語版・英語版）
 - ・ 主催者が提供する情報を元に基本となるキーデザインを作成し、公式ウェブサイトデザイン、パンフレット、フライヤー、ポスター、展示用広報素材など全般にわたるデザイン、図表、写真等の迅速な作成・レイアウト、並びに主催者の指示に従った必要数の印刷をおこなうこと。
- ・ (イ) テープ起こし原稿の作成・翻訳
- ・ (ウ) ステートメントに関するインフォグラフィックスの作成
 - ・ 5.(1) ③のステートメント本文を視覚的に表現したインフォグラフィックスを作成する場合は、当該業務の受託事業者及びデザイナー等と共に作成・調整すること



- ・ ICEFのキーデザイン策定、当日配付用パンフレット、年次総会終了後の成果報告のパンフレット等の作成
- ・ 成果報告パンフレット作成要のテープ起こし原稿の作成・翻訳
- ・ ステートメントのインフォグラフィックスの作成・調整

5.(2) ICEF事務局の運営業務及び5.(3) 広報、情報発信業務

5.(3)広報、情報発信業務

④ICEFの普及に関する広報活動（抜粋）

- 国内外のエネルギー・環境関連イベントの機会を活用したICEFの普及を目的とするワークショップ等の開催、参加、出展に伴う広報及び付帯業務を行うこと（年間3回程度。ワークショップ等の開催、参加、出展に関する他機関等との契約行為を含む）。
- また、主催者の指示に基づき、当該ワークショップ等に参加すること。なお、各ワークショップ等には運営委員等の参加を想定しており、資料作成及び出張手続きにあたって、直接、関係者との連絡・調整が必要となる場合があることに留意すること。

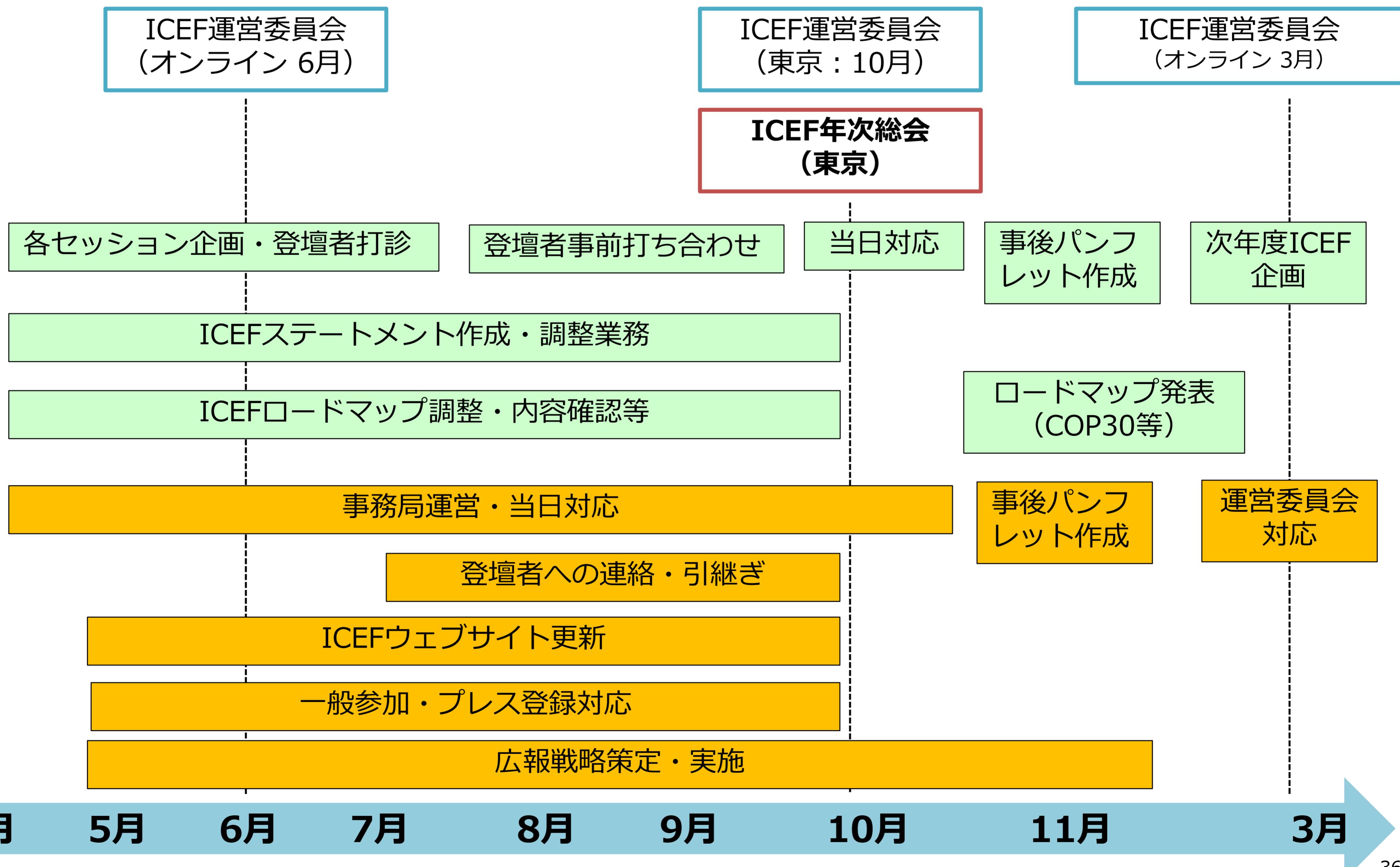


- ICEF年次総会開催前・開催後の広報イベント・ワークショップ等への参加調整・契約行為等
- 2024年度は、「環境ビジネスオンライン」のセミナーにICEF田中委員長が登壇、ICEF関係の記事を発行

IV. 仕様書概要



2025年度の業務スケジュール（イメージ）



<u>I. ICEF概要</u>	-----	p.2-9
<u>II. 公募概要</u>	-----	p.10-19
<u>III. 委託先の選定</u>	-----	p.20-24
<u>IV. 仕様書概要</u>	-----	p.25-36
<u>V. 提案書作成に関する補足説明</u>	-----	p.37
<u>VI. 問い合わせ先</u>	-----	p.39

V. 提案書作成に関する補足説明



● 「別紙1」 提案書の記載内容に従って、作成してください。

- 共同提案の場合は、表紙は提案者毎に作成してください。
- 提案者の表紙には、提案者名、代表者名、所在地を正確に記入してください。
- 斜体文字は提出時に削除してください。
- 業務管理者、連絡担当者情報についても漏れなく記入してください。
- A4サイズでPDFで提出してください。
(作成時は、PowerPoint等の別ソフトで作成いただいても構いません)
- 「4. 提案する方式・方法の内容」の項目を意識して、提案書を作成してください。

別紙1

※斜体文字は提出時に削除してください。

「2025年度「Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) の実施に
係る国際連携及び情報発信等事業」に対する提案書

調査テーマ
「Innovation for Cool Earth Forum (ICEF) の実施に係る国際連携及び情報発信等事業」
【(1) 気候変動対策において注目すべき政策・技術に関する調査】
【(2) ICEF事務局の運営業務及び(3) 広報、情報発信業務】

■提案する調査項目のみ記載を既してください。

年 月 日

上記の件について貴機構の調査事業を受託したく、下記の代表者名にて提案させて頂きます。

提案者名 〇〇〇〇〇株式会社 (法人番号)
■法人番号は、国税庁の法人番号公表サイト
(<https://www.houjin-bangou.nta.go.jp/>)などを用いて記載して
ください。(13桁)

代表者名 代表取締役社長 ○ ○ ○ ○

所在地 〇〇県△△市····· (郵便番号〇〇〇-〇〇〇〇)

業務管理者及び連絡担当者

業務管理者 (りがく) 氏名： 所属： 役職：	<連絡先> 所在地：(郵便番号、住所) TEL： E-mail：
連絡担当者 (りがく) 氏名： 所属： 役職：	<連絡先> 所在地：(郵便番号、住所) TEL： E-mail：

・複数事業者による共同提案を行う場合、本表紙を提案者毎に作成してください
・提案書は、A4サイズで印刷可能なサイズとしてください。
・NEDOが提示する仕様書に沿った内容にて提案してください。

- 本公募の内容や契約に係るご質問については、本公募資料をご確認いただいた上で、**2025年3月3日（月）正午**まで下記宛てにご連絡ください。
- 希望者は、2025年3月3日（月）正午までオンラインにて面談も受け付けますので、公募ページに記載の申込方法にてご連絡ください。
- ただし、審査の進捗状況等に関するお問い合わせには応じられません。

（問い合わせ先）

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

事業統括部マルチ・ICEF課：山崎、西田、藤波、中屋

E-mail：icef@ml.nedo.go.jp